

目指すべき方向は

たくましく個性的な産業づくりを進めるためには、地域の特性を活かし、時代の変化にも即応できる産業の振興・発展、育成が極めて重要な役割を担っています。また、若者の定住条件の1つにもなっていることから、活性化の根幹となる雇用機会の拡大と魅力ある職場の確保に努めるなど、各産業の調和のとれた産業振興施策を推進します。

このため、農林業においては、「健康」を一つの切り口として、地域農業の担い手である認定農業者やミネラル野菜栽培農家による付加価値の高い作物を生産するとともに情報を積極的に発信し、力強い産業への変革と経営の近代化に努めます。



中心市街地の役割とは...



最近では森林浴による効果が注目されています

工業については、未操業の工業用地の解消、雇用の創出、地域産業への波及効果などから、優良企業の誘致を積極的に進めるとともに、既存企業の体質強化を図り、産業構造の高度化・強化に努めます。

商業については、市街地の変化に対応した新しい商業地の形成を図るとともに、経営基盤の強化と近代化を推進し、魅力ある商店街づくりを目指します。

また、観光については、優れた自然景観や豊かな観光資源の保全と、新しい観光資源の開発に努めるとともに、心を動かす魅力ある観光地として一層の充実に努めます。

『葉っぱを宝に変えた町』

見出しを読んで、「？」と思われた方、またテレビや新聞でも紹介されたことも多いので、「聞いたことがあるな」と思った方もいるはずですよ。

この町は小野町ではありません。人口2145人（10月1日現在）の徳島県上勝町の事例です。上勝町では、木の葉や小枝を料理に添える「ツマモノ」として商品化することで、町の面積の9割近い山林を宝の山に変えたのです。

もちろん「葉っぱ」を「宝」に変える苦労は、並大抵のことではなかったようです。地域への「危機感」が商品開発のきっかけとなり、数件の農家の協力を得ながら、本気になって根気強く取り組んだことが、地域に自信と元気を与えてくれたようです。

10月号の広報に「地域の宝」と表現しましたが、地域をあげて、小野町の「宝」を見つけ出し、町を元気にしていきたいと思います。

